

令和6年度 大商学園高等学校 学校評価報告書

1 目指す学校像

|  |
|--|
| 「人格教育」を主眼とし、有能で品格のある人材の育成<br>①学力を向上させ、生徒の進路希望を実現する学校。<br>②基本的な生活習慣の確立を図る学校。<br>③学校行事、部活動を充実させ、自律した生徒を育成する学校。 |
|--|

2 中期的目標

|  |
|--|
| 1 学力向上と授業改善に取り組む。<br>(1)生徒の学力の向上を目指し、教員の授業力向上に取り組む。<br>(2)教員同士の公開授業・研究授業に取り組む。<br>(3)生徒の学力に応じた授業改善に取り組む。<br>(4)授業改善のため、生徒による授業アンケートを実施する。<br>2 生徒の規範意識を高め、教職員全体で頭髪・服装・遅刻・マナー等の生活指導に取り組む。<br>(1)遅刻指導を徹底し、生活習慣の確立に取り組む。<br>(2)登下校の生徒のマナーを高める。<br>(3)日常の言葉遣いを徹底し、正しい言葉遣いの意識を高める。<br>3 生徒の進路意識を高め、進路希望を実現する。<br>(1)放課後や長期休業中の進学講習を充実させる。<br>(2)3年間を見通した「総合的な探究の時間」で、生徒の進路意識を高める。<br>(3)自習室の効果的な利用を図る。<br>(4)簿記や英検などの資格取得の取り組みを充実させる。<br>4 生徒の自主活動を充実させ、自主・自律の精神を養う。<br>(1)部活動の加入率を増やし、部活動を活性化させる。<br>(2)体育祭・文化祭などの学校行事を充実させ、生徒の主体的な活動を支援する。<br>(3)国際交流を活発に行い、国際感覚を身に付ける。 |
|--|

3 学校教育自己診断の結果と分析・学校評価委員会等からの意見

| 学校教育自己診断の結果と分析<br>(生徒による授業アンケートは令和6年9月実施)<br>(学校教育自己診断は令和7年1月実施)  | 学校評価委員会等からの意見<br>令7年3月15日実施  |
|---|--|
| <b>【学校生活の満足度】</b><br>「大商学園での高校生活に満足している」の肯定感は、78.6%あり、昨年とほぼ同じ。また、「大商学園の先生は分かりやすい授業を行っている」の肯定感も、80.7%あり、昨年とほぼ同じである。本校の教育活動が一定の成果を上げてきている。今後、生徒の満足度を85%以上に引き上げたい。<br><b>【学習活動】</b><br>「学力を付けるための宿題や課題が多く出されている」の肯定感は、79.8%あり、昨年に比べて微増である。今後、生徒の家庭での学習時間を増やす取り組み強化し、85%を | ○授業に対する生徒の肯定感が9年連続で増えているのは、先生方の努力の賜物である。<br>○「学力を付けるための宿題や課題が多く出されている」の肯定感が毎年増えているのは、生徒の層の変化によるところが大きいのでは。<br>○「体育祭の満足度」が77.5%、「文化祭の満足度」が77.8%と微増である。生徒会の更なる努力が必要である。<br>○四年制大学への合格実績が上昇しているのは、地道な先生方の取り組みの賜物である。国公立、早稲田、関関同立、産近甲龍の延べ合格者数は131名であ |

|   |   |
|---|---|
| <p>目指したい。</p> <p><b>【進路指導】</b></p> <p>「進路について、先生は適切なアドバイスを与えてくれる」の肯定感は72.8%と昨年とほぼ同じである。今後とも、より丁寧なアドバイスを全教職員で行い、肯定感75%目指したい。</p> <p><b>【学校行事】</b></p> <p>「自分のクラスは行事に積極的に取り組んでいる」の生徒の肯定感79.9%あり、昨年とほぼ同じである。学校行事は、数年前と比べて、より充実してきている様子が伺われる。</p> <p><b>【部活動】</b></p> <p>「学校の部活動は活発である」の肯定感、生徒も保護者も97%もあった。部活動は大変活発である。</p> | <p>る。</p> <p>○学校教育自己診断の生徒のアンケート結果は、学校生活全般に対する肯定感が9年連続で増えている。これは、学校が良くなってきていることのあらわれである。</p> <p>○旧第1学校の公立・私立合わせて23の高校の中で、大商学園は遅刻をする生徒が12年連続で一番少ない高校になっている。生徒指導の取り組みの大きな成果である。</p> <p>○登校中の生徒の表情が大変良いと、地域の方からの評判も良くなっている。</p> |
|---|---|

#### 4 本年度の取り組み内容及び自己評価

| 中期的目標          | 今年度の重点目標    | 具体的な取り組み状況   | 評価指標  | 達成状況及び今後の改善方策  |
|----------------|-------------|--|---|--|
| 学力向上と授業改善に取り組む | (1)教員の授業力向上 | <p>①予備校が実施している授業研修会に各教科の教員を参加させる</p> <p>②11月に教員同士の公開授業に取り組み、かつ、各教科ごとの研究授業を実施する。お互いの授業を参観することによって、教員の授業力を向上させる。</p> <p>③生徒による授業アンケートを実施し、教員の授業改善の参考資料とする。</p> | <p>①授業研修会に参加した教員の数。</p> <p>②何名の教員が他の教員の授業を参観したか、また、研究授業を参観した教員の数。</p> <p>③生徒の授業アンケートで、分かりやすい授業の肯定率。</p> | <p>① 河合塾、駿台予備校の高校教員を対象にした授業研修会に各教科ごとに1～3名、合計15名の教員が参加し、その内容を教科会議で報告した。</p> <p>② 非常勤講師を含め135名の教員が他の教員の授業を参観して、その感想を教頭に提出した。また、各教科で1名、合計7名の教員が研究授業を行い、100名の教員が研究授業を参観した。教科会議で研究授業について意見交換を行った。</p> |

|   |   |   |  |  |
|---|---|---|--|--|
|   |   |   |  | <p>③ 生徒の授業アンケートで、授業が分かりやすいの肯定感 は 79.9%あり、昨年とほぼ同じである。</p> <p>※全体として、本年度の目標は概ね、達成されたと思われる。</p> <p>※今後の改善方策</p> <p>①予備校での授業研修に参加した教員に職員会議で報告して貰い、全教職員で共有する。</p> <p>②研究授業での各教科で議論して貰った内容を職員会議で報告をし、学校全体のものとして共有する。</p> <p>③授業アンケートで肯定感の低い教員に対して、管理職が授業を見て指導する。</p> |
| 2 | <p>(1)遅刻指導の徹底。</p> <p>(2)登下校中の生徒のマナーを高める。</p> <p>生徒の規範意識を高め、教職員</p> | <p>①毎朝と下校時に、服部天神駅周辺に教員が立ち、登下校指導を行う。</p> <p>②毎朝、校門前等に教員が立ち挨拶運動を行う。</p> <p>③遅刻した生徒に対して担任の個別指導を徹底して行う。</p> | <p>① 遅刻者数を北摂ブロックの公立・私立合わせて 23 高校中、12 年連続で最も少ない学校を目指す。</p> <p>② 学校教育自己診断で、「生徒はよく挨拶をする」の肯定感を 97%以上にする。</p> | <p>① 令和6年度も、北摂ブロックの公立・私立合わせて 23 高校中、生徒 100 名あたり遅刻者数が 12 年連続で最も少ない学校となった。</p> <p>②学校教育自己診断で、「生徒は挨拶をよくする」の肯定感 は 95.8%あった。昨年とほぼ同じである。</p> <p>※本年度の目標はほぼ達成されたと思われる。</p>  |

|                                   |  |  |   |  |
|-----------------------------------|--|--|---|--|
| <p>全体で頭髪・服装・遅刻・マナー等の生活指導に取り組む</p> |  |  |   | <p>※今後の改善方策<br/>         ①遅刻の少ない生徒を表彰し、全校生徒の意識改革を図る。<br/>         ②登校・下校中のマナーだけではなく、電車中でのマナーを高めるべく、教員が同乗して指導を行うことも検討する。</p>                                  |
| <p>3<br/>生徒の進路意識を高め、進路希</p>       | <p>(1)長期休業中・放課後の進学講習を充実させる。<br/>         (2)3年間を見通した「総合的な探究の時間」を充実させ、生徒の進路意識を高める。<br/>         (3)自習室の効果的な利用に取り組む。</p> | <p>①進学講習について、各教科まかせにするのではなく、進路指導部として責任を持った進学講習にしていく。長期休業中の講習の講座を目標別・進路別に開講する。<br/>         ②「総合的な探究の時間」を検討するプロジェクトチームを発足させて内容を吟味していく。<br/>         ③大学見学ツアーを実施し、生徒の進路意識を高める。<br/>         ④生徒が自習しやすいように、各教科の教員が随時、自習室にいるようにする。</p> | <p>①進学講習の担当者にシラバスを提出させ、進路指導部が進学講習の中身を把握する。<br/>         ②学校教育自己診断で、「生徒の進路実現に向けて高い目標を持った授業が行われている」の肯定感を70%以上にする。<br/>         ③大学見学ツアーを夏休み前に実施し、生徒の意識改革に取り組む。<br/>         ④学校教育自己診断</p> | <p>①担当者全員がシラバスを提出して進学講習を行った。夏季講習は進路別・目標別の講座を開講した。<br/>         ③ 学校教育自己診断で、「生徒の進路実現に向けて高い目標を持った授業が行われている」の肯定感 は 74.0%と昨年とほぼ同じである。<br/>         ③大学見学ツアーは</p> |

|                    |  |   |  |  |
|--------------------|--|---|--|--|
| 望を実現する             |  |   | で、「自習室は利用しやすい環境である」の肯定感を70%以上にする。  | 近大、京産、龍谷、同志社など12大学で実施。<br>④学校教育自己診断で、「自習室は利用しやすい環境である」の肯定感は67.1%で、昨年とほぼ同じである。70%には達しなかった。<br>※本年度の目標は達成されたとは言えない。<br>※今後の改善方策<br>①進学講習のシラバスの中味の吟味が必要である。<br>②大学合格実績は、今後は、国公立大学を増やしたい。<br>③今年も、自習室に大学生の学習チューターを常駐させて、生徒の質問に答えさせた。 |
| 4 生徒の自主活動を充実させ、自主・ | (1)部活動を充実すべく、部活動の加入率を増やす。<br>(2)学校行事の活性化を図る。<br>(3)国際交流を活発に行う。 | ①新入生歓迎会やクラブ紹介を充実させ、部活動の加入率を高める。<br>②各部の取り組みを生徒会新聞等で紹介し、生徒に部活動への興味を持たせる。<br>③11月に千里中央のコラボ会館を借りて、「大商学園高校展」を開催し、文化系部活動の発表の場とする。<br>④体育祭の応援合戦を新たな形の応援合戦にすべく、他の学校の応援合戦の様子を、本校の生徒に紹介し、団ごとの競争意識を高める。<br>⑤文化祭に賞を取り入れ、クラス間同士で競争させること | ①部活動の加入率を70%以上にする。<br>③ 学校教育自己診断で、「体育祭は満足した」「文化祭は満足した」の肯定感を80%以上にする。<br>③マゼノド高校以外の海外の高校生とも交流を行う。 | ① 部活動の加入率は62.7%であった。昨年とほぼ同じである。目標には達しなかった。しかし、女子サッカー部・女子テニス部・ダンス部が全国大会に出場した。<br>② 学校教育自己診断で、「体育祭は満足した」の肯定感は76.5%であった。また、「文化祭は満足した」の肯定感は73.   |

|                 |  |  |   |
|-----------------|--|--|---|
| <p>自律の精神を養う</p> |  | <p>によって、質的向上を目指す。<br/>         ⑥8月に、本校生がオーストラリアのマゼノド高校に行つて、マゼノド高校生と交流する。</p> | <p>8%あった。<br/>         ③8月に、16名の本校生がオーストラリアのマゼノド高校に行つて、ホームスティしながら交流した。<br/>         ※概ね、本年度の目標は達成されたと思われる。<br/>         ※今後の改善方策<br/>         ①運動系クラブの公式戦の日程等も生徒会新聞に載せ、生徒の意識を高める。<br/>         ②他校の文化祭の例を生徒に紹介し、文化祭への意識付けを高める。<br/>         ③大商学園高校展に多くの生徒に見に来て貰い、文化系部活動を活性化する。</p> |
|-----------------|--|--|---|

※令和6年度大商学園高校 学校評価委員の氏名

亀田章（地域の自治会関係者）、中野郁子（地域の自治会関係者）、新戸登代子（元 PTA 関係者）

溝口章仁（元 PTA 関係者）、高橋剛（地域の自治会関係者）、真鍋貴彦（令和6年度 PTA 会長）